

令和3年度 能美市立辰口中学校 学校評価 【後期】

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価	
1	組織的な学校運営	教頭	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働の中で、教員の資質能力の向上を図る。	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート1＞ 97% 前期より1ptアップした。主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図った。必要な情報を共有しながら、一人一人が組織的に学校運営に携わることができた。今後、本校及び教員としての経験年数に関わらず、様々な取り組みを引き継いでいく必要がある。	A
			②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働きを見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと平準化の工夫を図る。	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	＜教職員アンケート2＞ 100% ＜教職員アンケート3＞ 42% 前期と同じ数値ではあるが「1.そう思う」のptに関して〈1〉は23pt減少〈3〉は10pt増加となった。勤務時間短縮への意識は高まりつつあるが、毎日の働き方への声掛けと共に、定時退校日に会議を入れない日を入れる、最終退校時間の設定、勤務時間入力の定期的なセルフチェック日の設定等の新たな対策と共に、業務の効率化という視点でカリキュラム・マネジメントを行う。	D
		生徒指導	③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	＜教職員アンケート4＞ 42% 各学年や部活動ごとの対応は迅速で早期解決につながっていたが、他学年や他の部活動で起きていることの情報共有に遅れることがあった。組織的に対応するため、全職員への共有を速やかに行う。	D
2	確かな学力の育成(知)	研究	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、GIGAスクール構想を意識した授業改善を図る。	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5,6＞ ＜生徒アンケート19＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができていくか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート5＞ 87% ＜教職員アンケート6＞ 94% ＜生徒アンケート19＞ 94% 生徒アンケートからは、前期と後期を比較すると、教師の授業が少しずつ改善していることがみられたが、教師アンケートからは、少し授業改善の意識が薄れていることがわかる。その原因を整理し、改善を図っていく。	B
			研究	②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずに褒め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート7＞ ＜生徒アンケート17＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	＜教職員アンケート7＞ 97% ＜生徒アンケート17＞ 87% 生徒アンケートは前期から2ptアップした。教師も生徒も日々努力していることがわかる。生徒がさらに実感できるように、教師はこれからも研鑽し続けていく。
		教務	③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	＜教職員アンケート8＞ 94% 学びのPDCAサイクルから、学力の検証・改善を図り、授業や定期テスト、家庭学習等を活用した様々な学力向上策を継続的に取り組むことができた。新学習指導要領における学力について再認識し、更なる学力向上策を構築していきたい。	A
3	豊かな心の育成(徳)	生徒指導	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	＜満足度指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート28＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	＜教職員アンケート10＞ 100% ＜生徒アンケート28＞ 97% 各学年、各クラスともアンケートや面談をもとに親和的な学年学級づくりや、各個人に対しても非常に丁寧に指導に当たっている。引き続き、様々な方向からの情報収集を行う、より良い集団作りを目指す。	A
			生徒指導	②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート25＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	＜生徒アンケート25＞ 28% 「今年度は中止されているものが多いができるだけ参加したい。(41%)」 地域に出かけての参加はなかったが、空き缶やペットボトルの回収など、校内でもできる取り組みには意欲的に参加していた。形が変わっても続けていきたい。
4	健やかな心身の育成(体)	生徒指導	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	＜保護者アンケート5＞ 79% 教育相談の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の整備など居場所の確保はできていたが、困り感のある生徒に対する積極的な生徒指導が推進できていない。不登校を生まないための取り組みを進めていく。	C
			生徒指導	②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	＜保護者アンケート8＞ 82% ＜保護者アンケート9＞ 81% ＜生徒アンケート22＞ 75% メディアに関する取り組みが遅れた。取り組み後に変化が見られる生徒もいたため、次年度に向けて適切な取り組み時期を検討する。
		保健文化	③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	＜教職員アンケート11＞ 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。	＜教職員アンケート11＞ 90% 前後期ともに高い評価を得た。運動会等の行事が中止や縮小する中、生徒が満足し達成感や成果が得られるようにどの学年も工夫し、管理職を中心に組織的に協力して取り組むことができた。	A
5	家庭や地域との連携	教務	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	＜教職員アンケート13＞ 90% ＜生徒アンケート13＞ 96% 2学期全般で行われた「課題研究」ではSDGsの視点をもとに個人の課題に応じた研究を進めることができた。今年度の取り組みを検証し、ICTを積極的に活用しながら進めていきたい。	A
			教頭	②学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	＜保護者アンケート10＞ 77% 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者が来校する機会は激減した。その一方でICTを活用した動画配信等、学校の様子を伝える新たな方法ができた。今後はハイブリッド型で情報を発信していきたい。